



若草もゆる

一生徒・保護者、地域の方々への広報誌ー

令和5年11月6日

才気煥発

「煥発」という言葉を知らなかった私は、今年度の合唱コンクールのスローガンが「才気煥発」と知らされるとすぐに、辞書を手に取り、その言葉の意味を確認しました。「火が燃え出るように、美点や精彩ある事柄が外面に輝きあらわれること【広辞苑】」。

中間発表を終え約2週間後の10月19日(木)、アエル文化会館。大榎祭合唱コンクールが開催されました。中間発表が学級の合唱練習に火を着けたことは、放課後練習を聴いて回れば容易に理解できました。ただ、この日を迎え、各学級がどこまで合唱を磨いてきたかは、今日のステージ発表を聴かない限り判断が付きません。それを確かめたくて、朝から開会が楽しみでなりませんでした。

1年生の発表が終わり休憩に入った時、4学級の上達した合唱に喜びを感じていました。この喜びは2年生の合唱後も続きました。3年生の合唱にいたっては、合唱最中から心の震えを感じていました。メロディーが、歌詞が、そして、曲想が、私の全身を刺激しました。まさに、これこそが煥発。思いが外面に輝きあらわれていなければ、全身をつつくこれ程までの刺激は感じなかったはずです。



12学級全てが、生徒全員が最高の表現力を発揮したステージでした。

閉会式が近づくと、私は、表彰とその後の挨拶に備え、ステージ袖へとスタンバイしました。そこには、閉会式を運営する生徒会本部役員の姿もありました。その中に、ステージ袖に姿を現したり、また隠したりを繰り返す女生徒がいました。はじめは、その生徒に対してこの後の出番に備え緊張をしているのかと思っていましたが、女生徒の目元に向かって左手が動いたのを見たとき、私はその女生徒が涙を隠しているのだと確信しました。涙の意味は何だったのでしょうか。喜び、悔しさ、寂しさ、感謝、…。この後、感情の整理を終え、ステージ上に表れたその生徒からは涙は消え、何もなかったかのように自分の役目を果たし、ステージ袖に戻ってきました。ステージ袖の涙。ステージ上の気丈な姿。これこそ煥発。閉会式におけるドラマも、ステージ上の学級合唱同様素敵なものでした。

表出されたきれいで温かい思いに終始包まれたコンクール。東中生のみなさん、
本当にありがとう。 【校長 橋村英明】